# 人とふれあい、見聞広げ

多感な高校生にとって教育（修学）旅行は学生時代の一大イベントだ。楽しみでもあり、また不安でもある。非日常の場に身を置き、その土地ならではのものに触れ、見て、人と接することで視野が広がることもある。ここでは充実した教育（修学）旅行を実施する４校の取り組みを取り上げる。

## 東京都立総合工科高等学校
台湾3泊4日
18年11月20～23日実施

現地高校生から歓迎を受ける

平田　誠一校長

藤原　直也教諭

閑静な住宅が立ち並ぶ世田谷区成城に位置する東京都立総合工科高等学校（平田誠一校長）は、機械・自動車科、電気・情報デザイン科、建築・都市工学科の3科を設置している。「広い視野から自然や社会のつながりを考える力（創造）と自己実現力を身につけたスペシャリスト（探求）、心身ともに健やかで、他者と協調し、国際社会に貢献できる豊かな人間性（協同）を育成する」学校作りを目指す同校は、東京都教育委員会から学力向上研究校に指定されている。

### 独自の二つの特色深化
### 海外で働く意義を学ぶ

出国ロビーで海外渡航手続き

学校教育では①理工系大学への進学②工業のスペシャリストの育成③国際理解教育の推進―の三つの柱を設け、大学進学にも対応したカリキュラムを設定している。就職希望者は、三級自動車整備士（卒業後筆記試験合格後）や第三種電気主任技術者（卒業後実務経験後）や二級建築士（卒業後実務経験後）などの国家試験を取得することもできる。また、設備拠点校として、自動車整備が学べる数多くの自動車、3Dプリンターなど最新の工業機械設備などが備えられており、近隣の工業高校の実習にも活用されている。

五つのコースに分かれ国際理解を促進

修学旅行は、グローバル人材を育成する「現地の高校生との国際交流」と、工業高校の特色を生かした「現地の専門系企業の見学会」を二つの特色として、開校当初から海外で実施。現地の高校生との交流によるコミュニケーション能力の育成や、現地企業での見学を通して「海外で働くことの意義」について学ばせている。また、修学旅行の前には、海外から研修旅行で同校に訪れる生徒と最低2回の国際交流を経験させている。

海外を修学旅行先として選ぶ際に一番大事にしていることは、安全・安心な場所であるかどうか。以前は他の海外地域を訪れていたが、治安や情勢を考慮し、保護者や生徒から理解が得られる場所として4年前から台湾を選んだ。

18年度の修学旅行は、台湾・台北を旅行先に11月20～23日の3泊4日で実施。2年生156人が参加した。修学旅行の実施を前に狙いについて藤原直也教諭は「事前から『集団行動』をこの学年のテーマとして掲げ、毎月の学年集会でも繰り返し指導してきた。どこに行っても自ら考えて行動し、全員が時間を厳守し行動できるか」と指導してきたという。

修学旅行では、台北市内にある松山高級工農職業学校で本校校歌を中国語で披露するなど学校間交流を行った後、現地高校生と一緒に台北市内を巡るB&S（ブラザーアンドシスター）プログラムを実施し、英語やボディーランゲージでコミュニケーションを取りながら観光を行った。また、工業系の企業訪問を行い、機械、自動車、電気、デザイン、建築、土木の六つの類型に分かれて工場見学や体験を行った。

B＆Sプログラムによる市内観光

現地企業を訪問し、現地で働く日本人から海外で働くことの大変さや面白さをうかがい知ることができた。それに加え、事前指導の際に、海外事業経験豊富な同校前身である世田谷工業高校OBによる講演を通して「海外で働く意義」について学んだ。

このほか、台湾高速鉄道、淡水、九份、十份、故宮博物院の五つのコースに分かれ、台北市内の観光スポット巡りや異文化体験を行い、台湾の歴史や文化に触れ、国際理解を深めた。

工場見学で働くことの意義を学習

帰国後、多くの生徒は高校生との交流が最も印象的だと話した。中には連絡先を交換してSNSでつながる生徒もいた。

修学旅行の成果について藤原教諭は「初めて海外に行く生徒も多く、入国、出国、換金など経験したことのないプロセスを体験して理解した。国際人となる第一歩となれば」と評価し、「台湾では接客される外国人としての立場だったが、今度は東京オリンピック・パラリンピックなど多くの訪日客に対して、どうしたら喜ばれるかを考えてほしい」と生徒の今後の成長に期待した。

今後の修学旅行の内容については「今の内容をただ単純に繰り返すのではなく、交流先の高校とメールを使い英語でコミュニケーションを図るなど、経験を授業に生かせるものにしていきたい」と述べた。

世界で活躍する工業人として一歩を踏み出した今年度の修学旅行。平田校長は次のように総括する。

「修学旅行では、本校独自の二つの特色が伝統として受け継がれ、毎回深化している。今後はこの特色をより広げて掘り下げていければと考えている。学校交流ではダンスや歌のイベントを行うだけでなく、現地の工業高校で実際に行われている実習を現地の言葉で受けるなど、日本と海外の違いを肌で感じられるようにしたい」。

また、「修学旅行を通じて知りあった現地生徒と数年後、数十年後に世界の工業の舞台で再会した時に、思い出話に花を咲かせてもらえれば最高だ」と修学旅行を経験した生徒たちの未来に対する夢を語った。

## 修徳高等学校
広島・山口方面4泊5日
17年11月20～24日実施

鈴木　智信教諭

海釣りに挑戦

### 瀬戸内の島で民泊体験
### 「感謝の気持ち」を養う

収穫物を手に取りニッコリ

島名産のみかんを収穫

修徳学園（大多田泰亘校長）は明治37（1904）年創立、今年で115周年を迎える歴史ある学園だ。

「どんな人にも教育の場を開く」ことを理念に、学園の校祖中川與志（よし）氏が「東本夜学部」の名で東京都墨田区本所に教場を開設したのが始まり。その後名称変更を経て、昭和24（1949）年に現在の東京都葛飾区青戸に校舎を移転、現在に至っている。

建学の精神は「社会のため自己の一生を捧げうる人物の育成」「感謝の生活を送れる人物の育成」「実社会で直ちに役立つ教養を身につけた人物の育成」。とりわけ「報恩感謝」（親切を受けたことを忘れずにありがたいと思う心とそのご恩に報いる言動）という校祖中川氏の教えを大切にしている。

中学と高校の男女共学で、高校の生徒数は3学年合わせて684人（2018年度）。「特進クラス」「選抜クラス」「普通科文理進学クラス」の四つのクラスを設け、生徒の目標やレベルに合わせたカリキュラムを組んでいる。

一方、課外活動も盛んで、体育系の野球、サッカー、柔道部、文化系の吹奏楽部などが全国レベルで活躍。著名なスポーツ選手も輩出している。

高校の修学旅行は2年次、「研修旅行」の名称で行っている。行く先はクラスにより分かれ、特進、選抜、英語選抜の各クラスは関西方面へ。海外から日本の大学に留学する学生とともに観光地を巡るというユニークな内容だ。外国人と英語でコミュニケーションをとることで、語学力を向上させる狙いがある。

一方、普通科文理進学クラスは広島・山口方面へ、4泊5日の研修旅行を行っている。

内容は平和学習、歴史学習、民泊体験の三つ。このうち平和学習は平和記念資料館、原爆ドームがある広島市で実施。核兵器使用による惨状を語り部の講話や資料で目の当たりにし、今後の国際平和に寄与できる素養を養う内容だ。また歴史学習は広島県宮島で平氏、山口県萩で幕末長州藩の歴史に触れる内容。

民泊は瀬戸内海に浮かぶ山口県の周防大島で行う。「第1次産業に特化した農村・漁村に宿泊し、現地の生活、文化、経済を体験することで、日本の風土を感じ、問題点を考えさせる」というコンセプトだ。

昨年（2018年）は本州と同島を結ぶ「大島大橋」に貨物船が激突した影響で、島での民泊体験ができなかった。直近の島での民泊は2017年。この年は150人（男子104人、女子46人）が参加し、男女別、3～5人のグループで40軒の受け入れ先に研修旅行2日目の夕方から4日目の朝まで3日間滞在した。

生徒たちはこの間、漁業や農業など滞在先の家庭の仕事を手伝ったり、料理の手伝いをしたりと、家族と同様の生活をした。

漁業を営む家庭では海釣り体験をし、バケツいっぱい取った魚を自らの手でさばいた。一方、農業を営む家庭では、島の名産品のみかんを収穫。都会ではできない体験に、生徒たちは興味津々だった。

2017年の学年主任だった同校の鈴木智信教諭は「アレルギーや病気を持つ子どもへの対応など、安心して任せられる態勢が整っている」と同島の受け入れ態勢を評価する。

釣った魚を生徒自らがさばく

「これまで大きなトラブルはない。体格のいい運動部員の生徒がご飯を食べ過ぎて迷惑をかけたぐらい（笑い）。受け入れ家庭は皆、生徒たちを子どもや孫のようにかわいがってくれた」。

2泊3日の民泊体験を終えた生徒たちは受け入れ家庭との別れを惜しみ、閉村式では男女を問わず涙する姿も。

「教育の建学以来の目標が感謝の気持ちを養うこと。生徒たちは親元を離れたことで、普段の親のありがたさを実感したのではないか」（鈴木教諭）。

実際、旅行後の事後学習では、参加生徒の約8割が親への感謝、それに匹敵する割合で島の受け入れ家庭への感謝を口にしたという。

同じ年頃の子どもを持つ鈴木教諭は「自分の子どもにも民泊体験をさせたい」と、その教育効果を強調する。

島での民泊を含めた広島・山口方面の研修旅行は今後も実施する。ただ、特進クラスが行っている英語の実践教育を加えるなど、内容を一部変更する予定だ。


映画村の体験学習
本物と自然と昔にこだわる

お手軽な時代劇の扮装体験
時代劇の扮装をして映画村の江戸の町を歩いてみませんか。メイクなし、かつらも省いた着物の着付けだけのお手軽プランなら、短時間で「変身」して時代劇の世界をお楽しみいただけます。
【扮装種類】町娘・舞妓・芸者・振袖若衆・武家内儀・殿様・同心・遠山奉行・坂本龍馬・新選組隊士

清水焼絵付け体験
【染付】素焼の生地に絵付けをしていただきます。染付の色はグレーと茶色の2種類あります。
【京焼】白色系に焼き上げた器やグラスに3～5色のカラーを使って絵付けをしていただきます。

京扇子・京うちわ手描き体験
舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。

※体験学習は全て有料・要予約となります。

お手軽な時代劇の扮装体験

清水焼絵付け体験【染付】
清水焼絵付け体験【京焼】

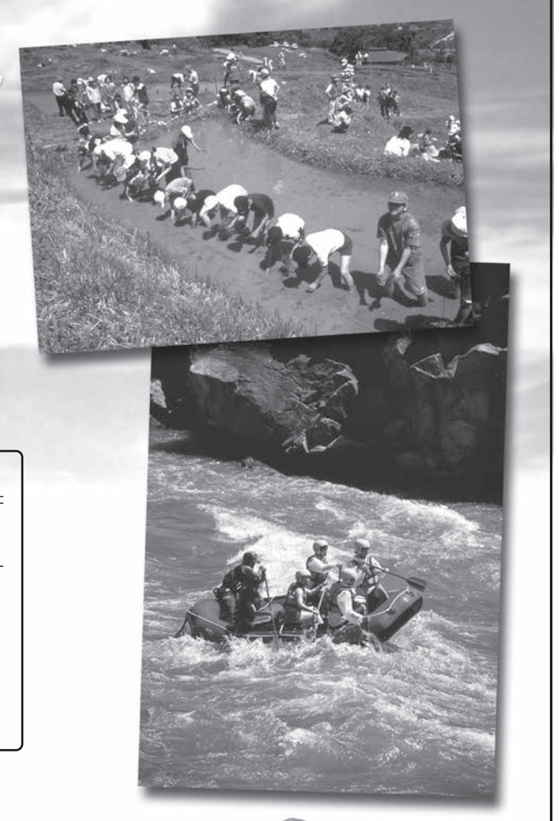
京扇子・京うちわ手描き体験

体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで！
TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村
http://www.toei-eigamura.com
〒616-8586　京都市右京区太秦東蜂岡町10番地
ナビダイヤル ✆0570-064349　お問い合わせ ✆075-864-7716
営業時間 /9:00～17:00（3～11月）
9:30～17:00（12～2月）
休村日 / 2020年1月中旬



年間4300校以上（平成29年度）にご来県いただいている
信州・長野県への学習旅行は

(一社)長野県観光機構は、長野県庁内に事務局を置き、国内外を問わず、長野県への学習旅行のご案内をさせていただいております。
資料請求・お問合せは下記まで！
皆様のご来県をお待ちしております。



お問合せ・資料請求先
(一社)長野県観光機構　学習旅行担当
TEL:026-238-9670　FAX:026-232-3233
E-mail:gakushu@nagano-tabi.net
http://www.naganoken-gakushuryoko.net
〒380-8570（住所不要です）
長野県庁 1階